

まずは、今、卒業証書を手にした三十三名の卒業生の皆さんご卒業、本当におめでとうございます。日ごとに寒さが和らぎ、春の訪れが感じられるようになり、新しい命が芽吹こうとしている今日のこの佳き日に、高根沢町教育委員会教育長 小堀 康典様をはじめ、多くの御来賓の方々、そして保護者の皆様方の御臨席を賜り、平成三十年度、中央小学校卒業式を挙げていきますことを、心から感謝申し上げます。

今、一人一人に手渡した卒業証書を、皆さんはどんな思いで見つめているでしょうか。六年間の小学校生活の中で生まれた、いろいろな思い出が蘇っていることと思います。

その中でも、最上級生となった今年一年間を振り返ると、必死で取り組んだ、町や地区の陸上大会。自分たちで計画を立て実践した、修学旅行の、鎌倉での自由行動。運動会での応援団、南中ソーラン二〇一八、騎馬戦。美しい歌声を披露した、地区の学校音楽祭。北風の中走り抜いた、町民広場での校内持久走大会、どれも六年生の、迫力と気力とやる気を感じました。

また、なかよし班活動や清掃活動では、下級生を、やさしくリードしてくれました。委員会活動では、新しい活動に取り組みながら、責任を持って、役割を果たしてくれました。その他にも、国旗当番や儀式や集会の時の、体育館の会場準備・片付けなど、皆さんの日々の活動が、中央小学校の日常を支えていました。本当に、ありがとうございました。

そんな皆さんの姿を見ながら、毎日、担任の鈴木先生と二人で、いつもの場所で、真剣に皆さんのこれからのことを考え、いろいろな話を話すのは、たいへんなこともありましたが、とてもうれしく、楽しい一年間でした。特に二月の末に、朝の教室で登校を出迎え、朝の会をやり、社会や体育の授業に出て、自主学習帳を見させたもらった四日間は、校長ではなく、一教員として、皆さんに少しだけ近づけたような気がして、忘れることのできない楽しい思い出になりました。

さて、今日は卒業する皆さんに、最後のお願いを一つしたいと思います。それは、卒業アルバムにも載せてありますが、

「置かれた場所で、今できることを、精一杯、素直にやりとおす」ということです。

こんな気持ちで学習や仕事をしていると、必ずそれを見て、初めに助けてくれる人が現れてきます。次にその学習や仕事を、認め、褒めてくれる人が現れてきます。そして、認めてくれた人達が、自分のやりたい学習や仕事へと導いてくれます。みなさんのこれからの人生において、自分の思いどおりにならないこと、本当はやりたくないことだけれど、我慢してやらなければならないことなど、たくさんあります。そんなときは、

「置かれた場所で、今できることを、精一杯、素直にやりとおす」を思い出して、乗り越えてください。それが、みなさんの人生においての、幸せにつながると考えています。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。今、立派に成長されたお子様の姿を御覧になり、感慨もひとしおのことと拝察いたします。私共教職員は、お子様の成長の一助になれるよう、日々努めてまいりました。至らない点も多々あったことと思いますが、それにも関わらず、本校教育に深い御理解と温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。今後とも、地域の良き理解者として、これまで同様にお力添えくださいますよう、よろしくお願いいたします。

では、名残は尽きませんが、卒業生の前途が洋々たることを祈りつつ、式辞といたします。

平成三十一年三月十九日

高根沢町立中央小学校長 加藤 正明